

Prime Network のデータベース複製か同期に関する問題を解決するプロシージャ

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[問題](#)

[トラブルシューティング](#)

[解決策](#)

概要

この資料は一次データベースからのスタンバイ データベースが rebuilt とき Prime Network のデータベース複製か同期に関する問題を解決するためにステップバイステップ手順を記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- 一次データベースの SWITCHOVER_STATUS が解決できないギャップにあるときだけセカンダリ データベースを再製するのにこのプロシージャを使用して下さい。
- セカンダリ データベースが READ ONLY にあり、または READ ONLY がどのモードをあるか、ことを一次データベースが読み書きに適用するようにして下さい。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Prime Network リリース 3.9 以上に
- Oracle Database 11G リリース

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

1. 一次データベースの switchover_status を知っているのにこのコマンドを使用して下さい:

```
SQL> select switchover_status from v$database;  
SWITCHOVER_STATUS  
-----  
UNRESOLVABLE GAP
```

注: 次に Prime Central Geo HA スイッチオーバーは失敗し不意に Prime Central GEO HA システムや破損データベース ロールのステータス (primay またはスタンバイ) およびあなた最後のアクティブ/待機状態によってプライマリかセカンダリを再製する必要残します。

注: 他のすべてのケースに関しては、データベース複製問題を解決するために Cisco TAC の SR を開いて下さい。



2. プライマリおよびセカンダリ データベースの現在のモードを知っているのにこのコマンドを使用して下さい:

```
SQL> select open_mode from v$database;
```

問題

Prime Network データベース複製失敗。

Prime Network アプリケーションはイベント ビジョン GUI クライアントで利用可能である、そのような失敗を知らせるシステムイベントを作成します。

	232424401	09-Jun-16 15:10:06	Replication failure - Database replication failed	Unit 10.229.7.53
	232421801	09-Jun-16 15:00:06	Replication failure - Database replication failed	Unit 10.229.7.53

トラブルシューティング

ソリューションの前に、基本 troubleshooting ステップをのような実行して下さい:

1. プライマリおよびセカンダリ Prime Network ゲートウェイ間のネットワーク接続やレイテンシー 関連 問題をチェックして下さい。

2. これらのデータベース データベース関連 ORA エラーを検出するためにログオンしますプライマリをチェックして下さい:

```
<database_home_directory>/diag/rdbms/anadb/anadb/trace/alert_anadb.log
```

3. プライマリおよびセカンダリ データベースの open_mode、current_scn およびスイッチオーバーステータスをチェックして下さい。

```
SQL> select open_mode from v$database;  
SQL> select current_scn from v$database;  
SQL> select switchover_status from v$database;
```

4. データベース複製のための根本的な原因はプライマリおよびセカンダリ Prime Network ゲートウェイ、破損 データベースまたは同じようなデータベース 関連エラー間のネットワーク communication 問題が原因である場合もあります。

解決策

プライマリおよびセカンダリ Prime Network ゲートウェイのデータベースの復元プロセスを実行して下さい:

ステップ 1: 現在のスケジュール済みバックアップ ジョブはファイル システムでアーカイブ ログ ログ・ファイルの数日を保存します。、backup_daily.sh のこの行取除かれるべきから避けるために、アーカイブ ログ ログ・ファイル backup_high_daily.sh、backup_weekly.sh および backup_high_weekly.sh はコメントになります:

変更します時間までの #delete noprompt archivelog に時間までの削除 noprompt archivelog を
.....

注: これらの「.sh」スクリプトは神託ユーザによって所有され、
\$ORACLE_HOME/ana_scripts ディレクトリで見つけることができます。

呼び出します。一次データベースで、sysdba としてログインはシステムの再実行ファイルの数を
によって見つけ、このコマンドを実行し、:

```
SQL> select member from v$logfile;
```

各ログに関してはうまくこのコマンドを実行して下さい。従って前のコマンドが 6 列を戻したら
、そして 6 回次のコマンドを実行して下さい。

```
SQL>alter system switch logfile;
```

ステップ 3 スタンバイ データベースで、sysdba としてログインは spfile からの pfile 作成し、:

```
SQL>create pfile='$ORACLE_HOME/dbs/ana_sb_init.ora' from spfile;
```

ステップ 4 sysdba としてスタンバイ データベース ログインでデータファイル、バックアップ ピース、
再実行ログおよびアーカイブ ログ ログ・ファイルにディレクトリ パスを見つけ出せば。
これはこれらのコマンドですることができます:

データファイルを見つけるため:

```
SQL> select name from v$datafile;
```

バックアップ ファイルを見つけるため:

```
rman target /
```

```
RMAN> list backup;
```

再実行ログファイルを見つけるため:

```
SQL> select member from v$logfile;
```

archiveLog を見つけるため:

```
SQL> show parameter log_archive_dest_1;
```

データベースをシャットダウンして下さい:

```
sqlplus / as sysdba
```

```
SQL> shutdown immediate;
```

ステップ 5.対応する ディレクトリからすべてのデータファイル ファイル、バックアップ ピース、
再実行ログファイルおよび archivelog ファイルを削除して下さい (パスはステップで 4.) 見
つけ出しました。

それからステップ 3 で作成される pfile の nomount を再起動して下さい:

```
sqlplus / as sysdba
```

```
SQL>startup nomount pfile='$ORACLE_HOME/dbs/ana_sb_init.ora;
```

ステップ 6 一次データベースでコピーをバックアップ フォルダーのすべてのオリジナル バックアップ ピースの撮り、他の位置でそれらを保存して下さい。

ステップ 7 一次データベースで、RMAN に接続し、ファイル システムからすべての物理的 なバックアップ ピースを取除くのに削除バックアップを使用して下さい。

```
#rman target /
RMAN>delete backup;
```

ステップ 8 一次データベースで RMAN に接続し、この順序でデータベース、スタンバイ制御 ファイルおよび archivelog の完全バックアップを奪取して下さい。これらのコマンドを実行して下さい:

```
#rman target /
RMAN>backup database;
RMAN>backup format '$BACKUP_DIR/Control%U' current controlfile for Standby;
RMAN>backup archivelog all;
```

注: \$BACKUP_DIR はリスト バックアップと以前に見つけられる現在のバックアップ フォルダーであり、ファイルは Control%U と将来呼ばれます。それは変数ではありません。

ステップ 9 一次データベースで RMAN に接続し、ステップ 8.で探す \$BACKUP_DIR/Control%U.のネーム形式のファイルを作成されたスタンバイ制御 フィールドのための ckp scn を調べるのにリスト バックアップを使用して下さい。

BS キーの種類 LV サイズ デバイスの種類 経過時間 完了時間

2358 十分に 1.09M ディスク 00:00:04 21-JAN-14

BP キー: 2358 ステータス: 利用可能 な圧縮された: YES タグ: TAG20140121T162311

ピース名前: /export/home/oracle/backup/Control9nouks3f_1_1

下記のものを含まれているスタンバイ制御 ファイル: Ckp SCN: 164541747 Ckp 時間: 21-JAN-14

注: この例では、スタンバイ制御 ファイル のバックアップは /export/home/oracle/backup/Control9nouks3f_1_1 です。このファイル名の下で行では、「Ckp SCN を見ます: 164541747"。ステップ 13 の重複実行ブロックで第 "164541747" を使用します。

ステップ 10 すべてのバックアップの上の一次データベース tar で作成されるものがステップ 8.で継ぎ合わせます。ルート ユーザ SCP としてスタンバイ データベースのバックアップ フォルダーへの tarファイル。

ステップ 11: 神託に tarファイルのファイル 所有権を変更するルート ユーザおよび使用 chown としてスタンバイ データベース ログイン: dba. それから神託 (SU -神託) および untar するに戻ってユーザを tarファイル切り替えて下さい。

手順 12: 主なネットワーク ユーザとしてプライマリゲートウェイ ログオンおよび cd ~/Main ディレクトリへのおよび動作する sys パスワードを得るこのコマンド:

```
./runRegTool.sh -gs 127.0.0.1 get 127.0.0.1 persistency/general/EmbeddedDBSystemPass
```

注: 一次データベースからのスタンバイ データベースに接続するのに次のステップで戻された sys パスワードが使用されています。

手順 13: 次に一次データベースで補助データベースにデータベース (プライマリ) をおよび接続して下さい (スタンバイ) 目標とするために。それからスタンバイ データベースを作成するために**重複実行ブロック**を実行して下さい:

```
#rman target /
RMAN>connect auxiliary sys/$sys_pwd@ANADB_SB
RMAN>run {
set until scn $SCN_NUMBER;
duplicate target database
for Standby
dorecover
spfile
set "db_unique_name"="anadb_sb"
set LOG_ARCHIVE_DEST_2="Service=anadb ASYNC LGWR VALID_FOR=(ONLINE_LOGFILES,PRIMARY_ROLE)
database_unique_name=anadb"
set FAL_CLIENT="anadb_sb"
set FAL_SERVER="anadb"
set log_file_name_convert="$REDO", "$REDO"
nofilenamecheck;
}
```

注: \$sys_pwd はステップ 12 で入手した sys パスワードです。実行ブロックの \$SCN_NUMBER はステップ 9. で一例として得られます。\$REDO は/に先行している再実行ログの場所です。

手順 14: ステップ 13 の実行ブロック。、そしてスタンバイ データベース ログインで sysdba として完了し、読み取り専用 のモードのスタンバイ データベースが読み取り専用によって適用するモードを続いた始動にこれらのコマンドを実行します:

```
sqlplus / as sysdba
SQL>shutdown immediate;
SQL>startup nomount;
SQL>alter database mount Standby database;
SQL>recover managed Standby database using current logfile disconnect from session;
SQL>recover managed Standby database cancel;
SQL>alter database open read only;
SQL>recover managed Standby database using current logfile disconnect from session;
```

手順 15: 一次データベースの確認の後で、backup_daily.sh、backup_high_daily.sh、backup_weekly.sh および backup_high_weekly.sh のこの行のコメントアウトを解除して下さい:

変更します時間までの noprompt archivelog を削除する時間までの #delete noprompt archivelog を.....

検証

プライマリおよびセカンダリ Prime Network ゲートウェイのデータベース 確認:

1. 再実行ログファイルの数および名前がプライマリおよびスタンバイ データベースに同じであることを確認して下さい。
2. プライマリおよびスタンバイ データベースのデータファイルの数およびサイズが同じであることを確認して下さい。

3. スタンバイ データベースの電流 SCN が一次データベースの SCN に追いつくことができることを示すのに Primary およびスタンバイ両方データベースのこのコマンドを使用して下さい:

```
sqlplus / as sysdba
SQL>select current_scn from v$database;
```

4. 一次データベースの open_mode が読み書きである READ ONLY との適用しますスタンバイ データベースでことを確認すれば。

```
sqlplus / as sysdba
SQL>select open_mode from v$database;
```

5. プライマリの switchover_status がスタンバイにあり、スタンバイ データベースで許されないことを確認して下さい:

```
sqlplus / as sysdba
SQL>select switchover_status from v$database;
```

6. アーカイブ ログが転送されていること検証して下さい

Primarydatabase:

```
SQL> alter system switch logfile;
```

セカンダリ データベース:

新しいファイルが ~/arch で作成されるようにするためにチェックして下さい。

7. イベント ビジョン GUI のデータベース複製失敗に今後は会わないことを確認して下さい (次の 20 分で)。